

案件名：中等学校における学校図書室の役割拡充を通じた教育改善事業

「本」の力で子どもたちに未来への選択肢を！



- 実施団体：特定非営利活動法人ラオスのこども
[ラオスのこども \(Action with Lao Children\) \(deknoylao.net\)](http://deknoylao.net)
- 対象国・地域：ラオス国 ヱィエンチャン県 ムーン郡、サナカム郡
- 実施期間：2023年5月～2026年5月（36ヶ月）
- 事業実施の背景：

ラオスは口承文化の伝統が強く、文字文化が発達してこなかったため、読書が習慣化されていません。多くの地域では、学校や街中に書店や図書館がなく、子どもたちが文字に親しむ機会は非常に限られています。このような環境は、文字習得が遅れ、その後の人生を左右する大きな壁となっています。このような課題に対し、子どもたちが「図書室」という居場所を通して、世界を知り、多くの情報に触れることができる仕組みづくりをサポートしていく本事業。近年、世界では変化の激しい時代を生き抜くための「21世紀型スキル」が提唱されており、ラオスでも「社会発展に必要な知識・技術・意欲を持つ人材」の育成や、子どもたちが広く情報を収集選択し、「自ら考え行動する能力を持つ」ことが目指されています。本を通して、1人でも多くの子どもに成長の機会を提供します。



目標と活動



目標：「学習・情報センター」としての図書室へ

- ・生徒と教員が日常的に図書室を利用できる体制の構築
- ・図書を活用した授業実施を通して、生徒の学習意欲が向上する
- ・県内/郡内の学校図書室ネットワークの構築による学校同士の交流促進
- ・図書室を活用した学校教育改善を県内で展開する体制の構築

活動

- ・活用しやすい学校図書室を整備し、各種研修を通して運営体制を確立
- ・授業での図書室活用を推進し、その実践例を記録・蓄積・共有
- ・SNSを活用して学校同士が図書室運営状況の情報共有を行う
- ・教育担当機関が連携し、授業における図書活用事例集を制作・活用する

推しポイント！



図書室運営は、教員のみならず、図書室委員の生徒たちによる貢献も大きいものとなり、何よりも普段なかなか手に取ることのない「本」の存在に子どもたちの顔は輝いています。加えて、村長さんや学校父母会メンバーなどによる「村開発教育委員会」が参画し、地域住民たちが「自分たちの図書室」として主体的に運営してもらう体制を構築することで、持続的・自立的な図書室運営を目指します。



「教育の国際デー」に改めて考える、教育の大切さ～Part 1 JICA



現地からのレポート



少しずつ整備されている図書室。今後は、生徒たちのニーズに合わせて、必要な図書を各学校側のリソースで調達していきます。

図書室を利用する人数を層別に把握できるよう、先生たちが日々カウント中。



ラオスの学校で図書室づくり～本の見せ方を工夫して、もっと魅力的で活用される図書室を！～ | 日本での取り組み-JICA